

# 繁和産業

3月に創業70周年を迎えた繁和産業。将来の新たな柱となるビジネスの探索に全社一丸で取り組んでおり、新規分野・新規商材の開拓に力を注いでいる。こ

の一環として輸出入ビジネスも拡充しており、中国やインドから日本への輸入、韓国や台湾への輸出を中心に手がけている。また東京を中心に関東での取引拡大にも力を注いでいる。

89期・2016年9月期は当初予想を上回る売上高166億800万円を計上した。特需的なエネルギー関連のインフラビジネスがあった前期との比較では減収となるものの、14年9月期との比較では増収となった。今期は精密化学品で売り上げ増を見込みつつ、全体ではほぼ横ばいの予算としている。

新規分野・新規商材開拓では、「環境」を切り口として伸ばす余地が精密化学品部門だ

## 輸出入や関東の取引拡大

けでなく化学品部門でもあるとみている。天産物の活用促進もその一例で、ウレタン関連では、ひまし油など植物由来のバイオポリオールが組上に上る。

新規開拓にあたり東代清隆社長が重視するのがコミユニケーション。社内での他部署との情報共有はもとより、「客先の購買担当だけでなく研究部門など、いろいろな人に会うことが大切」と語る。これは「これから伸びる分野・製品にどうワイクするか」ということでもある。

国内外の化学業界では再編の動きが続いており、合併によるメーカーの企業規模拡大がみられる。一部には直販を志向するメーカーがあり、商社の存在感が問われる時代ともいえる。東代社長は「無数に存在する顧客を、きめ細かく回りフォローできる商社の価値」を強調する。